

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	1493600074
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホームいっしん館いずみ
訪問調査日	平成21年5月12日
評価確定日	平成21年6月3日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 5月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600074号
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館いずみ
所在地	横浜市泉区和泉町1953-2 (電 話) 045-806-1218

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年5月12日	評価確定日	平成21年6月3日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 31日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18人		
職員数	15人	常勤 11人	非常勤 4人	常勤換算 11.0人

(2) 建物概要

建物構造	(木造) 造り
	2 階建ての 1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	53,000 円		その他の経費 (月額)	35,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,240 円				

(4) 利用者の概要 (3月31日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.3 歳	最低 55 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	G&Gクリニック 湘南台中央デンタルクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、総合的な介護サービスを提供する「株式会社いっしん」の運営により神奈川県で2番目に開設されました。木造2階建ての2ユニット型のグループホームで、横浜市営地下鉄の立場駅から徒歩約15分の住宅地にあります。
建物内はバリアフリー構造で車椅子対応のエレベーターが設置され、洗面台は上下可動式になっており利用者に使いやすいようになっています。居間は、明るくゆったりとした空間で風通しも良く清潔で、その先には和室、庭と続いており開放感が感じられます。2階にはテラスが設けられています。
職員は、年齢や男女のバランスも良く、活気があり、明るくチームワークの取れた支援を実施しています。運営会社の基本理念に沿って、利用者が「当り前の事を当り前に」出来るような支援を心がけています。毎年全員参加の一泊旅行、個別に居酒屋や映画、喫茶店、カラオケに行くこともあります。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回評価での取り組みを期待したい点は、開設1年目でもあり、①地域密着型サービスのとしての理念②運営推進会議を活かした取り組み③運営に関する家族等意見の反映④職員を育てる取り組み⑤重度化や終末期に向けた方針の共有⑥災害対策⑦栄養摂取や水分確保の支援の7点ありましたが、概ね期待する水準のものであり、通常範囲では実施されています。しかしながら、①と⑥に関しては、今後も更なる取り組みを期待します。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の評価に向けては、各フロアの主任を中心に、職員全員で分担して自己評価に取り組みました。新たに「防災マニュアル」の作成をする等、前回の評価結果を活かした改善に向けての取り組みを図っています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 区の方針により、地域ケアプラザにて行政職員も出席し、地域のグループホーム合同で3ヶ月に1回開催しています。合同での開催のため、他のホームおよび行政職員との交流の場にもなっています。ホームからは、活動状況や情報発信をし、災害時の避難の協力を呼びかけました。当ホームや認知症に対する理解やイメージを把握してもらい、委員の方からは助言や感想を聞くことが出来ました。また、地域の「あいさつをしよう」運動や防災訓練等、地域の活動への参加や連携について歓迎され、会議が活きたものとなっています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 毎月「いっしん便り」を家族へ送り、利用者の近況や各種報告をしています。家族の来訪時やケアプラン作成をはじめ、必要に応じて連絡をして話し合い、運営や日々のケアに反映させています。 来訪時や運営推進会議への出席、ご意見の設置や、ホーム相談窓口、運営法人窓口および外部苦情申し立て機関を明記して要望や苦情を表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 開設2年ですが、地域との良好な関係が築かれています。ホームのオーナーは地元の方で懇意なお付き合いをしています。また、自治会のお祭りや催しへ参加し、散歩やごみ出し、職員の出退勤時等には挨拶をしています。太鼓や踊り等のボランティアをはじめ、ホーム行事の夏祭りには地域の方に来てもらいます。小学生の通学路でもあり、挨拶はもとより、「のどが渇いた」と立ち寄り、お茶を飲んでいく子供もいます。今後は、1階にある多目的スペースを地域交流の場として利用して頂けるように働きかけていくことを考慮しています。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の「7つの基本理念」と「いっしん決め事十則」を念頭に、地域およびホーム内で、利用者の自尊心を大切にしながら、職員も共に明るく元気に楽しく過ごすことを実践しています。各ユニットへの出入りの際は、自分の家同様に、必ず「ってきます」「ただいま」と声に出しています。	○	地域とも良好な関係が築かれていますが、改正介護保険法で新設された地域密着型サービスとしての役割として、事業所独自の状況にあった理念を表していくことも期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営法人社長を交えた毎月の会議をはじめ、ホームのミーティングや日々の話題にあげて共有を図り、理念に沿った支援に取り組んでいます。事務室にも、「7つの基本理念」と「いっしん決め事十則」を掲示して、何時でも確認できるようになっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設2年ですが、地域との良好な関係が築かれています。ホームのオーナーは、地元の方であり、懇意なお付き合いをしています。また、自治会のお祭りや催しへ参加し、散歩時等には挨拶を交わしています。太鼓や踊り等のボランティアをはじめ、ホーム行事の夏祭りには地域の方に来てもらっています。小学生の通学路でもあり、挨拶はもとより、「のどが渇いた」とお茶を飲んでいく子供もいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価に向けては、各フロアの主任を中心に、職員全員で分担して自己評価に取り組みました。前回の評価結果を活かした改善に向けての取り組みを図っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区の方針により、地域ケアプラザにて行政職員も出席し、地域のグループホーム合同で3ヶ月に1回開催しています。ホームからは、活動状況や情報発信をしています。委員の方からは助言や感想を聞くことができ、また、地域の活動への参加や連携について歓迎され、会議が活きたものとなっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の各担当とは、随時の連絡や情報提供を受けています。また、グループホーム連絡会に参加して交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「いっしん便り」を家族へ送り、利用者の近況や各種報告をしています。家族の来訪時はもちろん、必要に応じて連絡をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成をはじめ、必要に応じて家族と相談して対応しています。運営推進会議へ出席してもらい、ご意見箱の設置や、ホーム相談窓口、運営法人窓口および外部苦情申し立て機関を明記して要望や苦情を表せる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階と2階でお茶会や誕生会等の行事を一緒に行い、各ユニットの職員および入居者同士が日ごろから顔馴染みになり、異動の影響が少なくなるよう配慮しています。異動があった場合には、利用者へきちんと挨拶をし、「また遊びにくる」と伝えて理解を得て、実際、行事や各種機会に来訪しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部、法人グループ内、ホーム内、外部研修等、各種研修が行われています。半年先までの研修プログラムを立てています。掲示によって参加を募り、費用面での配慮も行っています。研修内容は、資料と共に他職員へ伝えることになっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、ケアプラザ、老人ホーム、地区合同運営推進会議等にて同業者との交流が行われています。また、法人施設間での会議や交換研修等、多数の交流の機会が設けられており、サービスの質の向上に役立てています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、見学に来てもらい、ホームの雰囲気を感 じてもらうようにして、本人や家族と話し合う機会を設け ています。職員は、さりげない声かけをし、自然と馴染 んでもらえるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から 学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯等の日常的な家事をはじめ、園芸や野菜 作り等、利用者の得意なものや好きなことをしてもらっ たり、教えてもらいながら、職員も含めて皆で一緒に住 んでいる感覚で過ごしています。個別に、居酒屋や喫 茶店、映画鑑賞等に出かけて共に楽しむ機会も設けて います。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	アセスメントをはじめ、利用者との日々のなにげない会 話やふれ合いの中から本人の思いや意向を把握して います。それらは、「気付きメモ」に残して職員間で共有 して検討し、支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画 を作成している	介護計画書は、アセスメントを実施し、利用者の話を必 ず聞き、家族の意向、日々の介護記録や気付きメモ、 居室担当者からの情報等を取り入れて、スタッフミー ティングおよびサービス担当者会議で検討して作成し ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、 本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即 した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月に1度見直しをして検討 し、基本的には6ヶ月に1度プラン作成を実施していま す。状況の変化等があった時には、その都度見直しを しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けており、いつでも連絡できる看護師が週に1度利用者の状況を見にホームを訪れ、利用者の体調管理を行っています。行政が関与している利用者が大半なので、訪問マッサージ等のサービスを受けるには限界があります。年に1回1泊の温泉旅行を恒例にしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回内科、精神科の医師がそれぞれ訪問しており、ほとんどの利用者はその訪問医に医療を任せています。ホームも24時間訪問医と連絡が取れる体制ができています。歯科も月2回訪問しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて確認し、契約書を締結しています。法人本部から支給されたエンジェル・セット(看取りの際に使用する品)が用意されており、利用者の重度化に備えた心構え、準備はしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と職員が家族のように暮らすことをモットーにしているせいか、居室の前には利用者の姓ではなく、名前が大きく貼ってあります。呼称は入居する際に本人・家族に確認しています。それでも居室を開ける際は必ずノックをしています。人前で排泄等に連れて行く場合は、羞恥心に配慮して、「ちょっとだけいいですか」と声掛けをしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースを尊重して、基本的に食事、10時のラジオ体操、お茶の時間以外は時間の設定はしておりません。また利用者はその日によって気分が違うので、スケジュールも決めていません。園芸の好きな人には、畑の草花の世話のほか、草引きを勧めたり、キレイ好きな人には、掃除をしてもらっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が買い物を含めて自分達で献立を作って料理をしています。会社の職員で栄養士の資格を持っている者が、年に1回訪れ、栄養指導に当たっています。利用者は大部分自立しており、ほぼ介助なしで食べています。職員も一緒に同じものを食べています。終わった後は、自分でワゴンまで歩いて、食器を下げています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回を目途にして、曜日、午前午後の時間帯を決めず、好きな時に入ってもらっています。決して入浴を強制することのないようにしています。利用者が入るときには、職員は扉を少し開けて見守っています。利用者の同性介助については、利用者の希望に沿って対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や食事の片付け、掃除、園芸等、本人の経歴や趣味を活かしたり、出来る範囲で役割をしてもらっています。また、レクリエーション、行事、外出の機会をつくり、楽しみや気晴らしの支援をしています。以前の話ですが、ベランダのペンキ塗りをしてもらった利用者もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は外出がとても好きな人が多く、車椅子の利用者と職員が近所に散歩に出かける様子がうかがえました。食材の買い物に出かける際にも、利用者が同乗していくこともあります。特に、家族とともに全員の1泊旅行を恒例としている事で、この他に靖国神社にも毎年出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアーの出入り口にはチャイムがつけられており、出入りの際に分かるようになっていきます。玄関は防犯のため夜になると施錠をするようにしています。居間、食堂が整形のゆったりとした作りとなっており、居間の先が和室と広い庭になっているせいか開放感があり、閉塞感はありません。職員がフロアーの扉を開け閉めする際には、大きな声で「行って来ます」「お帰り」と挨拶しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の外部評価からは、防災マニュアルを作成し、消防訓練も1度行われています。運営推進会議では、出席者に災害時の避難の協力を呼びかけています。非常用備蓄は食料、水、等が用意されています。	○	災害時の避難訓練も夜間や小人数、近隣の方の協力など色々な場面を想定し、定期的の実施する事が期待されます。また、非常用の備蓄は用意されていますが、利用者の人数と避難日数を再度検討し、不足分を補うことも期待されます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に職員が利用者の食事量を、主食とおかずに分けてチェック表に記載しています。状態のよくない利用者には、医師や栄養士によって指示された食事量、水分量の摂取量を守って実施しています。とろみ、刻みの必要な利用者には、個別に対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂はゆったりとした空間で風通しも良く、清潔感が感じられます。その先は和室、庭と続き開放感が感じられます。居間の壁には利用者の靖国神社、江ノ島水族館、年1回の1泊旅行（去年は伊東温泉）の写真等が飾られています。近所の方もらった季節の花が飾られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活をそのままここで継続できるよう、馴染みの家具、備品を持ってきました。仏壇、位牌、写真等を持ち込んでいる利用者もいます。持込の禁止物は、特にありません。カーテンは、防災カーテンにしています。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館いずみ
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町1953-2
記入者名 (管理者)	大淵 裕一郎 (副館長)
記入日	平成 21 年 4 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	7つの基本理念と決め事十則を念頭におき、私たちは利用者の自尊心を大切に、その人らしく暮らし続けることを支えています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いずみ館での全体ミーティング(月1回)やいっしん全館での運営推進会議(月1回)を通して理念を共有し、念頭に置きながら業務にあたれるよう日々取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には来館時に「いっしんの想い」という書類を渡したりして、地域の方々には泉区運営推進会議のときに基本理念の書類を渡し、取り組み方を話しています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員一同、ゴミ捨て、利用者と散歩の際等、挨拶運動実施しています。地域の方々から野菜や花など頂いたり、時折来館され交流を持っています。今後もより多くの方々に気軽に立ち寄れるような雰囲気作りを心がけています。	○ 地域住民の方から、館の隣にある大丸広場で日曜日に利用者と一緒にラジオ体操をやりたいとの声も頂いており、今後取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、消防訓練や下和泉ケアプラザでの芸能祭、泉・瀬谷館合同夏祭りなどを通して地域の方々との交流を図っています。	○ いずみ館主催の行事等も今以上に地域の方々の参加を呼びかけていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	泉区運営推進会議にて地域の方々の声や相談を受け、認知症の方と暮らしている方へのアドバイスや提案等をさせていただきます。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員で共有し、1つ1つ見直し改善に取り組んでいます。	○	新しい職員にも自己評価、外部評価を実施する意義、評価を生かして改善に取り組むプロセスを説明していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域住民の方からグループホームとはどういうところかわからないという声や、認知症といわれても何だかわからないという意見があり、それについて説明など行いました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区主催のグループホーム連絡会に参加して、近隣のグループホームの責任者の方々と話し合いを行い、泉区内のグループホームのサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護実践者研修・管理者研修などを通し知識を得ました。後見人制度では現在、利用者のご家族(1名)が後見人となるよう手続中です。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が加害者、利用者が加害者または被害者になることがないように細心の注意をはらい、防止に努めています。職員は先を見据えて行動し、利用者同士がトラブルにならないよう注意しています。	○	日々の行事と重なる事が多く、高齢者虐待防止関連法についての研修や講習会等に参加出来ていないのが現状です。今後取り組みとして時間を作り参加し、視野を広げたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には必ず利用者や家族等に疑問があるかないかを尋ね、理解し納得していただけるまで説明するようにしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内の電話を希望の際は使って頂き、ご家族、知人との連絡を取れるようにしています。又利用者が意見、不満、苦情等気兼ねなく言えるよう職員が日々の会話のなかで心情を聴けるよう取り入れています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度「いっしん便り」という形で利用者の近況を報告しています。又、面会に来ていただける家族の方が多いので、その都度必ず報告しています。又、健康状態の異変については、状態をみながら家族の方々と連絡を取りあっています。	○	職員の入社、異動、退職に関しては報告できていないので今後報告するようにしたいです。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」の設置をし、不満や苦情がある場合には「苦情報告書」に必ず記入し、運営に反映させています。	○	「ご意見箱」への投函が少なく(1通)気兼ねなく書いて頂けるよう便りや面会の際は伝えていきたいです。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いずみ館での全体ミーティング(月1回)やいっしん運営推進会議を通して、職員の意見、不満等を話し合う機会を設け、より満足して働けるようにしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、緊急時など職員が必要な場合、残業や休日出勤として人員を確保し、柔軟に対応できるようにしています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力、異動や離職を必要最低限に抑えるように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成講座や社内研修、また介護実践者研修、管理者研修など、内外を問わず職員がレベルアップできる場を設けています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区運営推進会議やグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流を深め、相互にサービスの質の向上を目指しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月1回、ストレスの発散に心がけた機会として飲み会、食事会を開いています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は各館が行うミーティングに参加し、職員の個々の状態、努力等を把握し、全スタッフが向上心を持って働けるよう運営者の思いを伝えています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の時点で不安なこと、ずっと続けていきたいこと、これまでの生活スタイル、心身状態などをよく聴き、利用者の気持ちをよく理解するよう努めています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に利用者を交えて要望をじっくり聴き、どうしてほしいのかをしっかりと聴くよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人・家族から要望を伺い、グループホームなのか有料老人ホームなのかを考慮し、支援しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度見学に来られてもいいので、場の雰囲気を知っていただくようにしています。見学に来られた際は、利用者がどのような環境、リズムで生活しているかなどを伝えるようにしています。	○	前回同様、3年という期日が経ったら体験入居、ショートステイ等できるよう検討したいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と常に笑顔のある雰囲気作りを心がけていますが、たまにケンカもします。また利用者は毎日体調や心情が変化するので、学ぶことが多いです。お互い人と人として接するよう心がけているので、支えあう関係が築けていると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	細かい事から、利用者の状況をこまめに家族に報告、相談し、共に利用者を支えていくよう心がけています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の意見を尊重しつつ、両者の関係を保てるように「報・連・相」は忘れないようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	過去の生活スタイルや性格などから、各利用者の望む他者との関係を考慮しながら、日々の集団生活を支えあっているよう支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	遊びに来て頂けるようサービス利用終了の際、お話をしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は必ず利用者本人と面談し話を聴き、暮らしの希望、意向の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、また家族の方々から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など聴き把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個人記録、当日勤務スタッフと情報を共有し日々の過ごし方、状態把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成においては、必ず本人と面談し居室担当者によるアセスメントの後、サービス担当者会議を開き、検討し作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月と6ヶ月経過で見直しを行っています。又、入退院などの際はその時点で見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとり、職員で情報を共有しながらより良い支援を行えるよう活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が映画館に行きたければ個別レクリエーションで一緒にいきます。お酒が飲みたい方には居酒屋にも出かけています。フットワークを活かし、利用者、家族の要望を柔軟に対応するようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の防災訓練や行事に参加したりしています。又、自治会にも参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	泉区運営推進会議で地域マネージャーやグループホーム関係者と話しあっていますが、他のサービスは利用していません。	○	利用者の要望に応じて、より良い生活への資源として活用していきたいです。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議やレクリエーションで使わせていただいておりますが、ケアマネジメント等については協働できていません。	○	必要性に応じて協働するか考えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に各2回、内科・精神科往診に来ていただいている主治医がおり、24時間連携をとれる体制をとっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	平成21年4月より精神科医による月2回の往診も始まりました。	○	新しく往診して下さる精神科の先生としっかり関係を築き、指導していただく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員（週1出勤される非常勤）と相談・協力をして利用者の体調管理をおこなっています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフが面会へ行き、直接様子を見ると共に現在の詳しい状態を看護師や担当医へ伺い、状況把握に努めます。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて確認し、重度化の場合は話し合いにより方針を決めています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態変化があった場合は、すぐに主治医に指示を仰ぐようにしています。又、御家族とも今後について相談・話し合いをしています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	診療情報提供書等資料だけではなく、本人が安心して心地よく生活する為の情報交換もしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	第一に「その人らしさ」を尊重とした会話・生活作りを心がけています。その上で、家族のような親しみを込めての会話を多く取り入れています。又、個人情報に関しては、カギ付きの保管を徹底しています。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動の強制はせず、選択肢を提供し、本人の立場に立った説明を行い、自己決定を支援しています。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・体操・お茶以外の時間設定はせず入浴場日も設定してません。本人の気分や身体状況に応じ入浴や散歩、レクを実施しています。	○	健康上の理由で定期的な運動が必要な入居者に対しては、本人が進んでやりたくなるような声掛け・工夫を実行する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望がある場合は、御家族と相談の上、行きたい店に行っていただける様に努めています。それ以外は、提携してる訪問美容で行っています。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握や皆さんのリクエストをとり、メニューに取り入れています。調理や片付けも入居者の能力に合わせ一緒に行っています。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の身体状況を考慮し、御家族の同意を得た上で支援しています。飲酒に関しては、誕生会やレク時に楽しんでもらっています。そのレクの一つとして居酒屋レクといったものも実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握した上で、さりげない声掛け支援を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本として入りたい日・時間に入浴していただいています。決して強制はせずに進んで入浴したくなるような声掛けなどを実施しています。	○	入浴を楽しめるように、外出レクなどを通して、大勢でお風呂を楽しめる等の機会を作っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状況に合わせて、寝具の清潔を保ち、お昼寝や安眠できる様努めています。又、臀部・陰部洗浄も状況により実施しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や食事の片付け、買い物や余暇など好きなことを一緒にやっています。花壇を活用して園芸や野菜作りも行っています。	○	地域の方との交流を深め、定期的に地域イベントも楽しんでもいただきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理の可能な入居者はありません。個人的な買い物はスタッフ同行にて出かけています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出るといったことも介護計画にあげ、本人が意欲を持って取り組めるよう努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度、一泊旅行を実施しており、個別では家族との外出や外泊を支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯型の子機にて、居室でいつでも家族や知人に気兼ねなく電話できるように配慮しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	元気に明るくお迎えをし、状況に合わせて一緒に食事をしていただき、居室やホールで自由に過ごしていただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、本人の意思決定を尊重し、身体拘束のない生活づくりを支援しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室やユニット出入り口は施錠していません。玄関は夜20時を過ぎたら防犯の為に施錠します。また1・2階の移動の際はエレベーターを使用する事に統一し、2階踊り場の階段手前にはベビー柵を設置しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子をさりげなく把握し、プライバシーを配慮しながらの見守りを大切にしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を考慮し、本人に確認を取るようになっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各利用者の身体状況、行動パターンを把握し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、対処法を学び、緊急搬送も経験しており、これからも徹底していきます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	泉区運営推進会議に参加し、地域の方々へ理解・協力を得られるようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族とも起こり得るかもしれないリスクについて説明をし、その中で要望に沿った生活をして頂けるよう、話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の見守りの中から利用者の体調や様子を把握し変化や異変の発見に努めています。気付いた際には速やかな対応を心がけています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指導処方に基づき処方薬を理解し、確実な服薬、利用者の体調の変化に注意しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表・食事摂取表を活用し、食事の工夫や便秘薬の調節、散歩などで排便コントロールをしています。又、新たに健康記録表を作成し、1枚の表にて把握できるものを使用しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施し、清潔を保ち、週1回義歯の洗浄と消毒を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や栄養士により食事面・水分摂取量などの指示を受け実施し、また献立を考えています。	○	利用者の個々の状態に合わせた食事対応（人工甘味料使用など）も出来るようにしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期往診時に主治医からの指導をいただく他に、外部研修・館内で新たに感染予防マニュアルを作成し、職員で予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限に気を配り、定期的な清掃で清潔を保持しています。	○	おやつ等、居室に持ち込まれ消費期限がきれていたことがあり食中毒予防のため、ホールで召し上がっていただけるよう声かけ、見守りを徹底していきたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ゴミ捨てや散歩の際には地域の方々、隣の広場で遊んでいる子供達とコミュニケーションをとり、気軽に来館していただけるよう声かけを実施しています。	○	より多くの地域の方々が来館しやすい様に環境作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは季節ごとの飾りや利用者の写真を貼ったりしています。共用空間は定期清掃を行い、清潔を心がけています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥には畳部屋を設置し、テレビの近くにはソファを2つ置き、ゆっくり談話できるスペースを作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にすべての利用者が以前から使用されている家具や備品で意向に合わせて快適な生活をしていただけるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調や状態、意向に合わせてこまめに調整しています。又、日中定期的に換気を実施しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はシンプルな環境作りをしています。又、歩行に支障をきたす物は置かず。手すりをつけるなど配慮しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人を尊重し、介助・支援を日々のコミュニケーションから汲み取り、出来ることはやっていただく様にしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の外回りは花壇があり、利用者とともに花や野菜を栽培しています。又、2階のベランダにテーブル・椅子を置き、お茶を飲んだり自由に使用していただいています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①	ほぼ全ての利用者の	
			②	利用者の2/3くらいの	
			③	利用者の1/3くらいの	
			④	ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①	毎日ある	
			②	数日に1回程度ある	
			③	たまにある	
			④	ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①	ほぼ全ての家族と	
			②	家族の2/3くらいと	
			③	家族の1/3くらいと	
			④	ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		① ほぼ毎日のように
			② 数日に1回程度
		○	③ たまに
			④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている
			② 少しずつ増えている
			③ あまり増えていない
			④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が
			② 職員の2/3くらいが
			③ 職員の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族等が
			② 家族等の2/3くらいが
			③ 家族等の1/3くらいが
			④ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○年に1回、利用者全員で1泊旅行を実施し、去年も伊豆の伊東に行きました。

○

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館いずみ
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町1953-2
記入者名 (管理者)	大淵 裕一郎 (副館長)
記入日	平成 21 年 4 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	7つの基本理念と決め事十則を念頭におき、私たちは利用者の自尊心を大切に、その人らしく暮らし続けることを支えています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いずみ館での全体ミーティング(月1回) やいっしん全館での運営推進会議(月1回)を通して理念を共有し、念頭に置きながら業務にあたれるよう日々取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には来館時に「いっしんの想い」という書類を渡したりして、地域の方々には泉区運営推進会議のときに基本理念の書類を渡し、取り組み方を話しています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員一同、ゴミ捨て、利用者と散歩の際等、挨拶運動実施しています。地域の方々から野菜や花など頂いたり、時折来館され交流を持っています。今後もより多くの方々に気軽に立ち寄れるような雰囲気作りを心がけています。	○ 地域住民の方から、館の隣にある大丸広場で日曜日に利用者と一緒にラジ体操をやりたいとの声も頂いており、今後取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、消防訓練や下和泉ケアプラザでの芸能祭、泉・瀬谷館合同夏祭りなどを通して地域の方々との交流を図っています。	○ いずみ館主催の行事等も今以上に地域の方々の参加を呼びかけていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩の際など地域の方々からの高齢者との暮らしの相談など話を聴きアドバイスなどしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員で共有し、1つ1つ見直し改善に取り組んでいます。	○	新しい職員にも自己評価、外部評価を実施する意義、評価を生かして改善に取り組むプロセスを説明していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域住民の方からグループホームとはどういうところかわからないという声や、認知症といわれても何だかわからないという意見があり、それについて説明など行いました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区主催のグループホーム連絡会に参加して、近隣のグループホームの責任者の方々と話し合いを行い、泉区内のグループホームのサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護実践者研修・管理者研修などを通し知識を得ました。後見人制度では現在、利用者のご家族(1名)が後見人となるよう手続中です。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が加害者、利用者が加害者または被害者になることがないように細心の注意をはらい、防止に努めています。職員は先を見据えて行動し、利用者同士がトラブルにならないよう注意しています。	○	日々の行事と重なる事が多く、高齢者虐待防止関連法についての研修や講習会等に参加出来ていないのが現状です。今後取り組みとして時間を作り参加し、視野を広げたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には必ず利用者や家族等に疑問があるかないかを尋ね、理解し納得していただけるまで説明するようにしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内の電話を希望の際は使って頂き、ご家族、知人との連絡を取れるようにしています。又利用者が意見、不満、苦情等気兼ねなく言えるよう職員が日々の会話のなかで心情を聴けるよう取り入れています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度「いっしん便り」という形で利用者の近況を報告しています。又、面会に来ていただける家族の方が多いので、その都度必ず報告しています。又、健康状態の異変については、状態をみながら家族の方々と連絡を取りあっています。	○	職員の入社、異動、退職に関しては報告できていないので今後報告するようにしたいです。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」の設置をし、不満や苦情がある場合には「苦情報告書」に必ず記入し、運営に反映させています。	○	「ご意見箱」への投函が少なく(1通)気兼ねなく書いて頂けるよう便りや面会の際は伝えていきたいです。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いずみ館での全体ミーティング(月1回)やいっしん運営推進会議を通して、職員の意見、不満等を話し合う機会を設け、より満足して働けるようにしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、緊急時など職員が必要な場合、残業や休日出勤として人員を確保し、柔軟に対応できるようにしています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力、異動や離職を必要最低限に抑えるように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成講座や社内研修、また介護実践者研修、管理者研修など、内外を問わず職員がレベルアップできる場を設けています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区運営推進会議やグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流を深め、相互にサービスの質の向上を目指しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月1回、ストレスの発散に心がけた機会として飲み会、食事会を開いています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は各館が行うミーティングに参加し、職員の個々の状態、努力等を把握し、全スタッフが向上心を持って働けるよう運営者の思いを伝えています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の時点で不安なこと、ずっと続けていきたいこと、これまでの生活スタイル、心身状態などをよく聴き、利用者の気持ちをよく理解するよう努めています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に利用者を交えて要望をじっくり聴き、どうしてほしいのかをしっかりと聴くよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人・家族から要望を伺い、グループホームなのか有料老人ホームなのかを考慮し、支援しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度見学に来られてもいいので、場の雰囲気を知っていただくようにしています。見学に来られた際は、利用者がどのような環境、リズムで生活しているかなどを伝えるようにしています。	○	前回同様、3年という期日が経ったら体験入居、ショートステイ等できるよう検討したいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と常に笑顔のある雰囲気作りを心がけていますが、たまにケンカもします。また利用者は毎日体調や心情が変化するので、学ぶことが多いです。お互い人と人として接するよう心がけているので、支えあう関係が築けていると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	細かい事から、利用者の状況をこまめに家族に報告、相談し、共に利用者を支えていくよう心がけています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の意見を尊重しつつ、両者の関係を保てるように「報・連・相」は忘れないようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人と連絡を取りたい際はすぐ電話で連絡を取れるようにし、場所に関しては希望の際は個別レクとして外出の支援をしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	過去の生活スタイルや性格などから、各利用者の望む他者との関係を考慮しながら、日々の集団生活を支えあっていけるよう支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	遊びに来て頂けるようサービス利用終了の際、お話しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は必ず利用者本人と面談し話を聴き、暮らしの希望、意向の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、また家族の方々から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など聴き把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個人記録、当日勤務スタッフと情報を共有し日々の過ごし方、状態把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成においては、必ず本人と面談し居室担当者によるアセスメントの後、サービス担当者会議を開き、検討し作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月と6ヶ月経過で見直しを行っています。又、入退院などの際はその時点で見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとり、職員で情報を共有しながらより良い支援を行えるよう活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が映画館に行きたければ個別レクリエーションで一緒にいきます。お酒が飲みたい方には居酒屋にも出かけています。フットワークを活かし、利用者、家族の要望を柔軟に対応するようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の防災訓練や行事に参加したりしています。又、自治会にも参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	泉区運営推進会議で地域マネージャーやグループホーム関係者と話しあったりしていますが、他のサービスは利用していません。	○	利用者の要望に応じて、より良い生活への資源として活用していきたいです。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議やレクリエーションで使わせていただいています、ケアマネジメント等については協働できていません。	○	必要性に応じて協働するか考えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に各2回、内科・精神科往診に来ていただいている主治医がおり、24時間連携をとれる体制をとっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	平成21年4月より精神科医による月2回の往診も始まりました。	○	新しく往診して下さる精神科の先生としっかり関係を築き、指導していただく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員（週1出勤される非常勤）と相談・協力をして利用者の体調管理をおこなっています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフが面会へ行き、直接様子を見ると共に現在の詳しい状態を看護師や担当医へ伺い、状況把握に努めます。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて確認し、重度化の場合は話し合いにより方針を決めています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態変化があった場合は、すぐに主治医に指示を仰ぐようにしています。又、御家族とも今後について相談・話し合いをしています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	診療情報提供書等資料だけではなく、本人が安心して心地よく生活する為の情報交換もしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	第一に「その人らしさ」を尊重とした会話・生活作りを心がけています。その上で、家族のような親しみを込めての会話を多く取り入れています。又、個人情報に関しては、カギ付きの保管を徹底しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動の強制はせず、選択肢を提供し、本人の立場に立った説明を行い、自己決定を支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・体操・お茶以外の時間設定はせず入浴場日も設定してません。本人の気分や身体状況に応じ入浴や散歩、レクを実施しています。	○ 健康上の理由で定期的な運動が必要な入居者に対しては、本人が進んでやりたくなるような声掛け・工夫を実行する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望がある場合は、御家族と相談の上、行きたい店に行っていたる様に努めています。それ以外は、提携してる訪問美容で行っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握や皆さんのリクエストをとり、メニューに取り入れています。調理や片付けも入居者の能力に合わせて一緒にしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の身体状況を考慮し、御家族の同意を得た上で支援しています。飲酒に関しては、誕生会やレク時に楽しんでもいただいています。そのレクの一つとして居酒屋レクといったものも実施しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握した上で、さりげない声掛け支援を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本として入りたい日・時間に入浴していただいています。決して強制はせずに進んで入浴したくなるような声掛けなどを実施しています。	○	入浴を楽しめるように、外出レクなどを通して、大勢でお風呂を楽しめる等の機会を作っていききたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状況に合わせ、寝具の清潔を保ち、お昼寝や安眠できる様努めています。又、臀部・陰部洗浄も状況により実施しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や食事の片付け、買い物や余暇など好きなことを一緒にやっています。花壇を活用して園芸や野菜作りも行っています。	○	地域の方との交流を深め、定期的に地域イベントも楽しんでいただきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理の可能な入居者はありません。個人的な買い物はスタッフ同行にて出かけています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出るといったことも介護計画にあげ、本人が意欲を持って取り組めるよう努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度、一泊旅行を実施しており、個別では家族との外出や外泊を支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯型の子機にて、居室でいつでも家族や知人に気兼ねなく電話できるように配慮しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	元気に明るくお迎えをし、状況に合わせて一緒に食事をしていただき、居室やホールで自由に過ごしていただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、本人の意思決定を尊重し、身体拘束のない生活づくりを支援しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室やユニット出入り口は施錠していません。玄関は夜20時を過ぎたら防犯の為に施錠します。また1・2階の移動の際はエレベーターを使用する事に統一し、2階踊り場の階段手前にはベビー柵を設置しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子をさりげなく把握し、プライバシーを配慮しながらの見守りを大切にしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を考慮し、本人に確認を取るようになっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各利用者の身体状況、行動パターンを把握し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、対処法を学び、緊急搬送も経験しており、これからも徹底していきます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	泉区運営推進会議に参加し、地域の方々へ理解・協力を得られるようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とも起こり得るかもしれないリスクについて説明をし、その中で要望に沿った生活をして頂けるよう、話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の見守りの中から利用者の体調や様子を把握し変化や異変の発見に努めています。気づいた際には速やかな対応を心がけています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指導処方に基づき処方薬を理解し、確実な服薬、利用者の体調の変化に注意しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表・食事摂取表を活用し、食事の工夫や便秘薬の調節、散歩などで排便コントロールをしています。又、新たに健康記録表を作成し、1枚の表にて把握できるものを使用しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施し、清潔を保ち、週1回義歯の洗浄と消毒を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や栄養士により食事面・水分摂取量などの指示を受け実施し、また献立を考えています。	○	利用者の個々の状態に合わせた食事対応（人工甘味料使用など）も出来るようにしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期往診時に主治医からの指導をいただく他に、外部研修・館内で新たに感染予防マニュアルを作成し、職員で予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限に気を配り、定期的な清掃で清潔を保持しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ゴミ捨てや散歩の際には地域の方々、隣の広場で遊んでいる子供達とコミュニケーションをとり、気軽に来館していただけるよう声かけを実施しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは季節ごとの飾りや利用者の写真を貼ったりしています。共用空間は定期清掃を行い、清潔を心がけています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥には畳部屋を設置し、テレビの近くにはソファを2つ置き、ゆっくり談話できるスペースを作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にすべての利用者が以前から使用されている家具や備品で意向に合わせて快適な生活をしていただけるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調や状態、意向に合わせてこまめに調整しています。又、日中定期的に換気を実施しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はシンプルな環境作りをしています。又、歩行に支障をきたす物は置かず。手すりをつけるなど配慮しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人を尊重し、介助・支援を日々のコミュニケーションから汲み取り、出来ることはやっていただく様にしています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の外回りは花壇があり、利用者とともに花や野菜を栽培しています。又、2階のベランダにテーブル・椅子を置き、お茶を飲んだり自由に使用していただいています。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の
		☐ ②利用者の2/3くらいの
		☐ ③利用者の1/3くらいの
		☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある
		☐ ②数日に1回程度ある
		☐ ③たまにある
		☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と
		☐ ②家族の2/3くらいと
		☐ ③家族の1/3くらいと
		☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○年に1回、利用者全員で1泊旅行を実施し、昨年も伊豆の伊東に行きました。

○